



平成24年5月18日

硝子体手術による病理診断

岡山大学病院では、早くから病理診断科と眼科が連携して、眼内リンパ腫の的確な診断方法を確立している。すなわち、硝子体手術によって硝子体混濁を切除し、その切除物の中の細胞を遠心分離で集めて細胞の塊(cell block)にして、通常の組織と同じようにパラフィン包埋して切片を作成し、免疫化学染色を行っている。正確な病理診断に基づいて、リンパ腫と炎症を区別して、治療方針を決めることが可能になっている。他施設では、免疫化学染色を行わない細胞診(細胞の形態にのみ基づく診断)で診断していて、岡山大学病院で行っている方法が優れている。

Immunocytochemical diagnosis as inflammation by vitrectomy cell blocks in patients with vitreous opacity.

硝子体混濁を呈した患者において、硝子体手術による混濁切除によって得た細胞塊(cell block)の免疫化学染色に基づく病理診断

Ophthalmology 2012年4月号 119巻 827-837 ページ

Toshihiko Matsuo, Kouichi Ichimura 著者 眼科 松尾俊彦 病理診断科 市村浩一

参考

Positron emission tomography/computed tomography after immunocytochemical and clonal diagnosis of intraocular lymphoma with vitrectomy cell blocks.

硝子体手術による細胞塊の免疫化学染色とクローン解析に基づいた眼内リンパ腫の診断と PET/CT

Journal of Clinical and Experimental Hematopathology 2009年 49巻 77-87 ページ

Toshihiko Matsuo, Kouichi Ichimura, Tomotsugu Ichikawa, Yoshihiro Okumura, Mitsumasa Kaji, Tadashi Yoshino

著者 眼科：松尾俊彦、病理診断科：市村浩一、吉野正、 脳神経外科：市川智継

放射線科：奥村能啓、岡山画像診断センター：加地充昌

<お問い合わせ先>

大学院医歯薬学総合研究科准教授

(氏名) 松尾俊彦

(電話番号) 086-235-7297

(FAX番号) 086-222-5059

(メール) matsuo@cc.okayama-u.ac.jp